

平成 30 年度 第 2 回 三原市地域公共交通活性化協議会 会議概要

日 時：平成 30 年 11 月 29 日（木） 10:00～11:00

場 所：三原市中央公民館 第 1 研修室

出席者：18 名（欠席 2 名）

内 容：

1 開会あいさつ

2 新任委員の紹介

3 報告事項

(1) 平成 30 年度（4 月～10 月）地域コミュニティ交通の利用状況について

[事務局から資料 1 により報告]

[質疑応答]

各委員：大和ふれあいタクシーが 8 月から 10 月の利用者が増えているが、7 月豪雨で道路が通れなくなり、大和町内を運行する路線バスが運休したため、利用者が増えたのではないか。河内甲山線が完全に復旧したのは 10 月 10 日だが、9 月 12 日から大和の徳良から甲山へは運行を再開している。

議 長：復旧次第利用者も増えてきている。

4 協議事項

(1) 自家用有償旅客運送の更新登録申請について

[事務局から資料 2 により説明]

[質疑応答]

各委員：有償運送で 27 年から 30 年の間、事故の報告があれば教えてほしい。

事務局：3 年間、佐木島循環バス、久井ふれあいバスとも事故は発生していない。

議 長：事務局提案のとおり申請をお願いしたい。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について

[事務局から資料 3 により説明]

[質疑応答]

各委員：久井ふれあいバスで利用者減の歯止めと説明にあったが、運行方法・内容の工夫もあると思うが、高齢者自身の生活の変化も要因にあるのかと思う。それに対し今後どのように考えていくのか。

事務局：久井ふれあいバスは路線定期型で運行しているが、高齢化が進めば停留所まで出てくるのも難しくなってくるので、本郷や大和で運行している区域運行型の方が地域にとってもいいのか検討するなど、高齢者の方が何を求めているのか把握して運行の見直しをしていきたい。

議 長：高齢者のニーズをきめ細かく対応していくのは大変なことだが、今後さらに検討を加えて可能な限り対応してもらいたい。

各委員：久井ふれあいバスは利用者が減少してきているが、人口の減少に応じた率で減少しているのとらえているか。

事務局：減少の要因としては、今まで利用されている方が亡くなったり、介護施設に入られるなど今まで利用されていた方が利用されなくなったことや、もう少し下の年代の方はまだ車を運転される方も多く、新規にコミュニティ交通を利用される方が少ないのが減少傾向となっていると考えている。

各委員：区域運行型も含めてとか、こういった利用者かというのを分析される必要があると思う。

議長：それぞれの地域での高齢者のニーズなどの詳しい検討をしていただきたい。

各委員：事業評価に出てこない、大和、佐木島、幸崎も収支率 10%以上を目標としていると思うが、そちらはどういう状況か。

事務局：平成 29 年度の実績では、大和は 14.9%、佐木は 25.1%、幸崎 17.6%で全てで 10%以上を確保している。なお、10%を下回ると運行内容を見直すこととしている。

議長：今後利用率が更に高まるように、地域と話をしていただきサービス向上を考えていただきたい。他に意見は無いようなので、事務局がとりまとめた内容で提出をお願いしたい。

5 その他

各委員：豪雨災害で三原市は大きな被害が出たが、市役所をはじめ地元団体、交通事業者が努力して回復に努められたことに敬意を表したい。県としても呉と広島方面が大渋滞で全く交通が機能しない状況があり、異例の対応もしたが、全く対応できなかった地域もあった。JR が長期に運行ができないことを考えたこともなかったが、こういうこともあると思って備えていかないといけないと考えを改めた。市町とも意見交換して取組んでいきたい。

各委員：本郷ではタクシーなど運行車両が浸水してしまった。公共交通が無くなる困るので、車両を高いところへ設けるなど、同様なことにならないようにする必要がある。

6 閉会